

科目名	建築構造学 Structures in Architecture			担当教員	米澤 巧 (窓口教員；向谷)		
学年	5 年	学 期	後期	履修条件	選択	単位数	2
分野	専門	授業形式	講義	科目番号	17134052	単位区分	学修単位
学習目標	・建築物に使用されている各種構造形式の力学的特徴を理解できる。 ・RC および鉄骨ラーメン構造を対象とし、その構造設計の流れおよび考え方を理解できる。 ・演習課題を通じて、問題解決能力、実行力および表現力を養う。						
進め方	講義を中心に進める。原則として講義ごとに演習問題等を与えるので、それを通じて理解を深めて欲しい。教科書と配付プリントを用いる。自学自習時間に相当する課題を出題する。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 概説(6) (1) 授業ガイダンス (2) 各種構造形式とその特徴 (3) 各種構造形態 (4) 設計法の流れ、荷重・外力 2. 建築構造を構成する部材(8) (1) 建築構造部材(床・小梁・大梁・柱・基礎) (2) 各部材の基本的な設計法			・各種構造形式(RC 造, S 造, SRC 造, 木造)の特徴を説明できる。 ・荷重の種類とその特徴を説明できる。 (B-2)「土木工学の基礎知識」 ・建築構造を構成する部材の単独および複合的な役割を説明できる。 ・各部材について基本的な設計法を理解できる。 (B-2)「土木工学の基礎知識」			
	[後期中間試験](2)						
	3. 二次設計における各種検討項目(6) (1) 層間変形角、剛性率 (2) 偏心率 (3) 保有水平耐力、耐震性能 4. 骨組塑性解析法の基礎(8) (1) 全塑性モーメント (2) 崩壊荷重			・二次設計における各種の検討項目を理解し、簡単な建物について、層間変形角、剛性率、偏心率の検討を行うことができる。 ・建物が保有すべき耐震性能について説明できる。 ・代表的な断面の全塑性モーメントが計算できる。 ・簡単な構造物の崩壊荷重が計算できる。 (B-2)「土木工学の基礎知識」			
	後期末試験						
	試験返却(1)						
評価方法	・2回の試験結果を平均し、60点以上を合格とする。 ・各試験の成績は、定期試験を60%、課題を40%考慮に入れて評価する。 ・課題の評価は、その提出状況と内容をもとに総合評価する。 ・自主学習についてはレポート提出により確認する。						
履修要件	特になし						
関連科目	構造力学Ⅰ、Ⅱ（3，4年） コンクリート構造（4年） → 建築構造学（5年） 鋼構造（4年）						
教材	・教科書；「図解テキスト 基本建築学 第三版」上杉哲他，彰国社 ・配付プリント						
備考	・再試験は実施しない。 ・学修単位；授業時間以外に、1週に4時間の自主学習が必要である。 ・窓口教員；向谷，専攻科棟5F，TEL 087-869-3921，メール mitsu@t.kagawa-nct.ac.jp，随時受付。						